

井戸の経過を見に行った現地からボランティアレポートです。

● トゥルカナ族の村の井戸、続報！

前回3日間かけてポンプを設置したイシオロ郡トゥルカナ族、ロティキ村の井戸。乾季になると、枯れた川底を掘って染み出てきた泥水を飲み水にしななければならないような乾燥地です。新しく設置した井戸から溢れ出たキレイな水にみんな大喜び。その後、井戸がどうなっているか、調査に行ってきました。赤土のでこぼこ道に、ときどき車のタイヤを取られながら村へと向かいます。村に入ると、駆け寄ってくるおじいちゃんたち。満面の笑顔で「あの井戸の水はとってもいいよ！」と口々に伝えてくれます。村の奥へ進むと、見えました、井戸。ちょうど水汲みに来ていた若い娘さんがポンプを数回押すと、透明な水が勢いよく流れ出ています。

「この井戸ができたから、とっても助かっているわ。前は何キロも離れた川まで、泥水を汲みに行っていたんだもの」と話す娘さん。毎日、60世帯ほどの地域住民が、主に料理、洗濯、掃除などの生活用水を汲みに来ます。



【夕方涼しくなると、水汲み場も大繁盛】

ここで、もうひとつ嬉しい驚きがありました。「見せたいものがある」と連れていかれた近くの住民の家。アカシアのトゲトゲの枝に守られているのは、なんとマンゴーの苗でした！マンゴーは乾燥地に強く、換金作物にもなり得る果樹ですが、やはり最低限の水は必要。そのためこれまで手が出せなかったのですが、井戸ができて水が使えるようになったので、栽培に挑戦しているそう。周りのトゲトゲは、放牧されているヤギに苗を食べられないように作った自家製の囲いだ、とのことでした。



【トゲトゲに守られているマンゴーの苗】

もう一カ所、「こっちも見て！」と連れていかれたのは、ケニアで主菜にしている野菜(ケール)の苗床。今までは年に一度、3ヵ月ほどしかない雨季を頼って、トウモロコシや豆などを細々と育ててきましたが、雨季以外にも育てられれば付加価値が付き、高い値段で売れ、現金収入を得ることができます。これまでは農業で生計を立てるのが難しく、森林を伐採して炭を作り、それを売って生計を立ててきたこの地の住民たちですが、井戸ができたことで、こうした新しい収入の可能性が見えてきました。



【厳しい日差しを避ける日除けも付いたケール畑】

「この井戸の水を使って、もっと農業を広げていきたいの。これから農業の技術も教えてほしい」と、村の女性グループの代表は話してくれました。井戸が無事に使用されただけでなく、援助を受けるばかりだった彼らの中に、自分たちで生活向上をしようという新しい動きと希望が見えてきたことは、大きな一歩です。

●待望の消防車、到着！

昨年6月、視察団で来日したニヤンダルア郡に日本外交協会を介して消防車が届きました。ケニア国内で、消防車が配備されている郡はほんの一握り。ACEFが発足した消防協会スタッフと現役ケニア人消防士を派遣し、操作説明と訓練を実施しました。そのボランティアレポートです。



ニヤンダルア郡が整備、運搬費を準備し、国内外の全ての手続きをクリアするのに8か月を要し、今年2月末にやっと待望の消防車が到着。ケニアには47の郡があるが、そのほとんどに消防車がない。結成したばかりの消防隊員が、せっかく手に入れた消防車の扱いがわからず壊してしまわぬよう、消防車の操作説明、消防隊員への教育と訓練に行ってきた。

(1日目)まずは消火器、蘇生術などの勉強 火災がおきた時の対処法、救助法、ランニングなど日ごろから基礎体力を備えるためのトレーニング法も教えたが、それだけで1日目は終わってしまった…。



(2日目)操作説明 消防車の操作説明もちろんですが、【はじめての蘇生法の訓練】

消防車の内外表示は全て日本語。操作マニュアルも日本語のため、ここで俺の出番だ！スワヒリ語、英語、手振り身振りを交えて、操作しながら全て説明するのに2時間以上かかったような気がするけど、理解はしてもらえたようで、最終的にニヤンダルア郡の消防士だけで操作し、消火できるようになり、一安心。

(3日目) 消火デモンストレーション 緊張が途切れたのか、集合時間になっても来ず、全員揃ったのは1時間後…やはりケニア人。一緒に来ていた講師の現役消防士を怒らせてしまい、その後の基礎体力訓練で1時間ほど絞られていた。その後、町中での消火デモンストレーション。訓練の甲斐あり、全てニヤンダルアの消防隊員だけで実行でき、見学に来ていた近隣住民からも拍手喝采をいただき、挨拶に立った郡役人からの評価も高く、出来過ぎだったように思える。



日本にいたときは消防の事はほとんど知らなかったのに、こういう機会を得たお蔭で消防車の扱い方を理解し、より興味も出てきた。他の郡にも教えるに行く事が決まっている。消防車のない街では、火災が起きても、ただじっと待つ事しかできない。日本では考えられないが、ケニアではそれが現実。日本の有難さを身にしみて感じた3日間だった。

振込先: 郵便局から(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト):

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355 アフリカ児童教育基金
*領収書が不要な方は、通信欄に「領収書不要」とご記入ください。

銀行から: ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座 0066355 アフリカ児童教育基金

*銀行からの振込みの場合、氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を電話かメールでお知らせください。



発行人: 〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4 (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 代表 小椋 とも代
TEL&FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com
現地事務所 Africa Children Education Fund(ACEF) P.O.Box 1365-60100 Embu, Kenya